

重点となる具体の学校経営目標(1)【学力向上】

「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」をはぐくむために「主体的で対話的で深い学び」に繋がる授業に進化させる。

課・室・学科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部評価
教務課	生徒が意欲的な学びができるよう、魅力ある授業創造の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外での授業改善につながる研修会への参加がしやすいような環境づくりを行う。 授業公開週間等を計画し、お互いで指導技術の向上を図れるような働きかけを行う。 授業を行うための基礎・基本(目標を示す。生徒が考える時間を設ける等)を意識した授業を支援し、指導方法の振り返りにつながる授業評価アンケートの実施と活用を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外の授業改善につながる研修会に、1回以上参加した教員が、70%以上(R02 65%)になる。 学校評価調査の「南高では、教え方が工夫され、わかりやすい授業が行われている」が70%以上(R02 65%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8月に行ったカリキュラムマネジメント研修会では、参加率は81.0%であった。 5月31日～6月25日に授業公開週間を設定し、1学期末には授業評価アンケートを実施し、指導技術の向上を目指し、グループによるまとめを行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の「南高では、教え方が工夫され、わかりやすい授業が行われている」が85%(昨年度80%)であった。 「今年度、校内の授業改善につながる研修会(授業参観を含む)に参加しましたか」に参加したとした者は、81.3%(昨年度85.5%)であった。 「今年度、校外の授業改善につながる研修会(授業参観を含む)に参加(予定を含む)しましたか」に参加したとした者は、29.2%(昨年度23.2%)であった。 	B	A
進路指導課	基礎学力の定着と「学びに向かう力、人間性等」を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 進路実力考査の事前・事後指導、小論文指導を行い、生徒の学習意欲を高める。 就職、進学に関する補習と模試を実施し、基礎学力を定着させる。 	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実力考査(2回目)で、国数英GTZを各学年でBゾーン以上を30%(R02 1年50% 2年28%)以上、Dゾーンが10%(R021年6.8% 2年15%)未満になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目(4月)の結果は、Bゾーン以上が1年生で77%、2年生で60%。Dゾーンが1年生2.2%、2年生で6.5%であった。2回目に下降しないよう各教科や学年団と連携し、適切な時期に事前学習教材を渡し、学力向上に取り組みたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路実力考査(2回目)の結果、Bゾーン以上1年:49.2%、2年:21.1% Dゾーン以下1年:10.9%、2年:19.0%であった。特に、2年生の基礎学力の定着を図りたい。 	B	B
図書視聴覚課	生徒の読書生活の支援を行い、自学能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を活性化し、校内での企画・展示などの充実を図る。 広報誌の誌面充実とともに、生徒・保護者へのアピールを活発に行い、広報活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人あたりの図書貸出冊数平均8冊以上を達成したクラス数が全体の65%(R02 70% 但し、R02は各クラス340冊以上を目標とした。)を超え、全体の年間総貸出冊数が10,000冊(R02 13,724冊)を超えている。 図書室の年間未利用者数が全体の5%(R02 4%)を下回る。 広報誌や掲示板などを用いた生徒・教職員への広報、通知票送付便を利用した保護者への広報が課全体で7回(R02 15回)を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人あたりの図書貸出冊数平均8冊以上を達成したクラス数が全体の19%、これまでの総貸出冊数が約6,400冊である。 図書室の年間未利用者は全体の14%である。 「紙面ディベート」「気になる新聞記事」「活躍する南高」などの企画で本館3階に展示し、毎月更新し続けることで、社会問題への関心を喚起した。生徒・教職員向けの図書館だより・司書だよりは計4回を発行した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人あたりの図書貸出冊数平均8冊以上を達成したクラス数が全体の54%、これまでの総貸出冊数が約9,800冊である。(1月現在)図書委員会からは例年以上の働きかけを行ったが、貸出は伸びなかった(2年生が低調)。様々な場面で読書の意義を説いたり、授業での図書館活用を積極的に行ったりするなど、全教職員の協力を呼びかけた。 図書室の年間未利用者は全体の10.6%(全員2年生)である。 「紙面ディベート」「気になる新聞記事」「活躍する南高」などの企画で本館3階に展示を行い、社会問題への関心を喚起した。生徒・教職員向けの図書館だより・司書だよりは計13回を発行した。 	B	A
情報デジタル室	校内におけるICT環境整備の推進において、GIGAスクール構想の下で整備された教師1人1台端末の積極的な利活用等を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> Google WorkspaceのClassroomの登録作業を行う。 Google Workspaceのフォームを使い健康観察を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の業務、教科指導等において、Google Workspaceを活用している教員の割合が80%(R02 65%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度入学生一人一台端末導入に関する調達、授業改善等の準備を進めている。 教師一人一台端末の活用推進は、日報、健康観察をはじめデジタル化を進めている。 コロナ禍における校内行事リモート配信を行う体制を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 来年度入学生一人一台端末導入に関する調達方法の決定、授業改善の公開授業を行った。 教師一人一台端末の活用推進は、日報の閲覧・印刷、健康観察をはじめデジタル化を完了した。 コロナ禍における校内行事リモート配信と外部向けのyoutubeライブ配信のスタンダード化を確立できた。 	B	A
商業科	学科の特色ある学びを主体的に実践し、課題解決に向けて積極的に行動できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ科目担当者間の教材・情報の共有をし、チームで指導にあたる。 積極的に資格取得に挑戦できるような日々の授業を充実させていく。 一人一台端末に向けたデジタル教材の活用を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の「高度な資格取得や全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上(R02 96%)になる。 全商1級3種目以上合格、岡山県高等学校職業教育技術顕彰対象者の延べ人数が180名以上(R02 205名)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度岡山県高等学校職業教育技術顕彰(前期)の被顕彰者は94名。(昨年度末100名) 全商1級3種目以上合格者が増えるよう、教科指導を工夫する。(昨年度末106名) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価調査の「高度な資格取得や検定受験、全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が96%であった。(昨年度96%) 全商1級3種目以上合格125名(昨年度106名)、岡山県高等学校職業教育技術顕彰対象者127名(昨年度100名)、延べ人数252名(昨年度206名)であった。 	B	A
家庭科	日々の授業や学科の特色ある活動を通して、基礎学力・技能の定着を図り、学びに向かう力・人間性を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ICTを有効的に活用し、基礎技能の定着を効率的に図る。 体験学習、ボランティア活動、企業連携、コンクールなどに参加する機会を多く設け、積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 被服・食物検定1級、保育検定2級の合格率が90%以上(R02 99%)になる。 年度末の生徒アンケートにおいて、「家庭学科の学びを通じ、社会人基礎力が養われた」という質問に対し、肯定的回答が90%以上(R02 98%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期検定において、食物検定1級は79人中77人合格(97%)、保育検定2級は27人中25人合格(92%)であった。コロナ禍によって実習が制限される中、検定に向けての指導を工夫して効果的に行う必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 被服・食物検定1級、保育検定2級の合格率はいずれも90%以上(昨年度99%)となった。 Google classroomから予習動画を配信するなどし、効果的な指導を行うことができた。 家庭クラブのスクールプロジェクトやMPSプロジェクト等を通じ、地域とつながり、課題解決学習を行うことができた。 年度末の生徒アンケートでは、ほぼ100%(昨年度98%)の生徒が「家庭学科の学びを通じ、社会人基礎力が養われた」と回答している。 	B	A